

# 総会記念シンポジウム開催

## 静岡県中部未来懇話会

一般社団法人静岡県中部未来懇話会の平成30年度定時社員総会記念シンポジウム（静岡新聞社・静岡放送共催）が6月18日、静岡市葵区のホテルアソシア静岡で開かれた。ラグビー元日本代表の小野澤宏時氏が「観戦から体験・参加へ」と題して基調講演を行った。パネル討論「スポーツの祭典を活かした観光の素地づくり」では、県内の若手経営者、教育関係者、地域活性化に取り組む団体代表の3人が観光に焦点を当てた中部地域の戦略や課題について意見を交わした。（パネル討論詳報はP6～8）

### 基調講演

## 観戦から体験・参加へ

ラグビー元日本代表 小野澤 宏時氏

▽「体験」は記憶に残る

観戦から体験、参加へ。2019年に日本で行われるラグビーワールドカップ（W杯）というチャンス。このビッグイベントをきっかけに持続可能な観光戦略のモデルをどう描くことができるか。そのあたりを世界を巡った視点から話したい。

世界の中で記憶に残った遠征先を上げるとニュージーランド、ウエールズ、スペイン。2011年ニュージーランドで行われたラグビーW杯で日本は地元ニュージーランドに70点ぐらい取られて負けた。唯一のトライを僕が上げた。試合後にマオリの原住民の村に行った。そこではおでこや鼻をつけて「こんにちは」と挨拶する。70点も取られると、

## ラグビーW杯の好機逃すな

日本だと、「あの国は弱い」とすぐく下にみてしまう。でもそこでは「強豪の我々ニュージーランド代表からトライを取った。すごい」と高い評価を受けて驚いた。そういうところにスポーツ文化の根付き具合の違いや深さを強く感じた。ウエールズでも同じだった。

イタリアでの代表合宿からスペインを旅したことがある。ことし初め、同じ場所（バルセロナ）に行ってきた。なぜ行ったのか、それはFCバルセロナが目的だった。メッシとかスウレスとか、サッカーで有名だが、地域総合型クラブなのでラグビーのチームも持っている。そのラグビーチームに所属したい夢があった。初日はネットの外からグラウ

おのざわ・ひろとき氏略歴 島田市出身。中央大学からジャパンラグビートップリーグ（TL）のサントリーに入り、トライゲッターとして活躍。2003年ワールドカップから3大会連続出場し、日本人で唯一3大会連続トライを達成。12年にはTL初の通算100トライを記録した。日本代表でのキャップ数は歴代2位の81を持つ。14年サントリーからキャノンに移り、17年3月キャノンを退社。4月から福井県体育協会職員（ラグビー特別強化指定コーチ兼選手）、常葉大講師も務める。

二日目は地元の人たちがグイグイ僕に近づいてきた。そして一緒に食事に行く、ジュニアのコーチと友達になる。子供たちの練習にも参加できた。そこからのつながりでマドリッドのクラブを紹介してもらった。そこでも気さくに食事に誘われた。当然仲良く親子供のコーチもやらせてもらった。

何を言いたいのか、それは「体験」したことは鮮明に記憶に残るといふことだ。

観光庁のホームページを見ると、外国人訪問者数のトッ

プ20の中で日本は17位、フランスの8280万人に対して2400万人。訪日外国人消費動向を見ると、次回の訪日ですべてみたいことのうち「日本食を食べる」「日本酒を飲む」は少なくなり、「スキー、スノーボード」「舞台鑑賞」「スポーツ観戦」「自然体験ツアー・農村体験」「四季の体験」「映画・アニメ縁の地を訪問」「日本の歴史、伝統文化体験」といった日常生活の体験が増えている。

二度目のスペインがまさにそうだった。最初は世界遺産巡り、ガイドブックを参考にした観光と、現地の観光がメインだった。ホテル泊のため毎日外食。でも二度目は、世界遺産は前を通るぐらい、ガイドブックも参考にしなかった。ホテルもキッチン付きの部屋を選んだ。

▽世界に誇る資産が豊富

それでは静岡県中部地域で何ができるのか、たくさんあると思う。理由は世界に誇る資産が数多くあるからだ。そ

して絶好の機会が訪れる。来年度のラグビーW杯、これをきっかけに何かできる。ラグビー関係者は何と言っているのか。日本でのW杯は4年に一度ではない、一生に一度だと。実際に一生に一度かもしれないが、W杯や2020年の東京五輪を機に静岡の素晴らしさをもっとPRし、そして体験につなげてインバウンドを増



やしたい。

袋井市のエコパスタジアムでW杯の予選4試合が行われる。改めて静岡県中部地域で何ができるのかというと、キーワードはやはり「体験」としたい。静岡にある素晴らしい資産と体験を合わせて外国人向けの企画を立案する。そして、もう一度静岡を訪れたいと思

## 外国人受け入れる素地をつくろう

わせるきっかけをつくろう。

例えばエコパスタジアムの周りに出場各国の村をつくる。ステップ1↓静岡県民が知る（まず開催地である県民が出場各国やラグビーのことを知る、興味を持つ。出場各国の大使館に協力を要請）▽ステップ2↓サポーターを選ぶ（県民が出場各国のサポーターになる。県内在住の外国人とサポーターとして一致団結）▽ステップ3↓体験企画を準備（観戦客を含む訪日外国人に静岡県を知ってもらおう企画を練る。県民が各国、静岡県の観光大使になる）▽ステップ4↓静岡県を体験してもらおう（ラグビー観戦だけで終わらせない）▽ステップ5↓体験、経験を通して静岡にまた来てもらおう。

▽みんなで考え活用する

食のカテゴリーで考えると、静岡県には海も山もあり食材が豊富。静岡県で試合がある各国の料理を学校給食で提供する。数年前に東京の町田市に南アフリカのスーパーラグ

ビーのチームがきた。学校給食に南アフリカの料理を出してもてなした。「子供たちが南アフリカの料理を食べたよ」と、その話を各家庭に持ち帰り、「そう、南アフリカのラグビーチームが来たんだ」と家族で話題にする。とても評判が良かった。

静岡には食に関する企業が多く、そうした企業のサポートを受けながら食を通じて各国に興味を持ち、サポーターになることも面白い。その結果、訪日外国人に対する受け入れ側の素地ができる。子供たちが世界に興味を持つきっかけにもなる。

静岡から新スポーツを開発、発信するのはどうだろう。静岡独自のゴール型競技を開発し、プレゼンテーションする。「気づいたら体験、参加していた」といった企画も楽しい。静岡を一生に一度にさせない。静岡には多くの資産が存在している。みんなで考え、積極的に活用しよう。